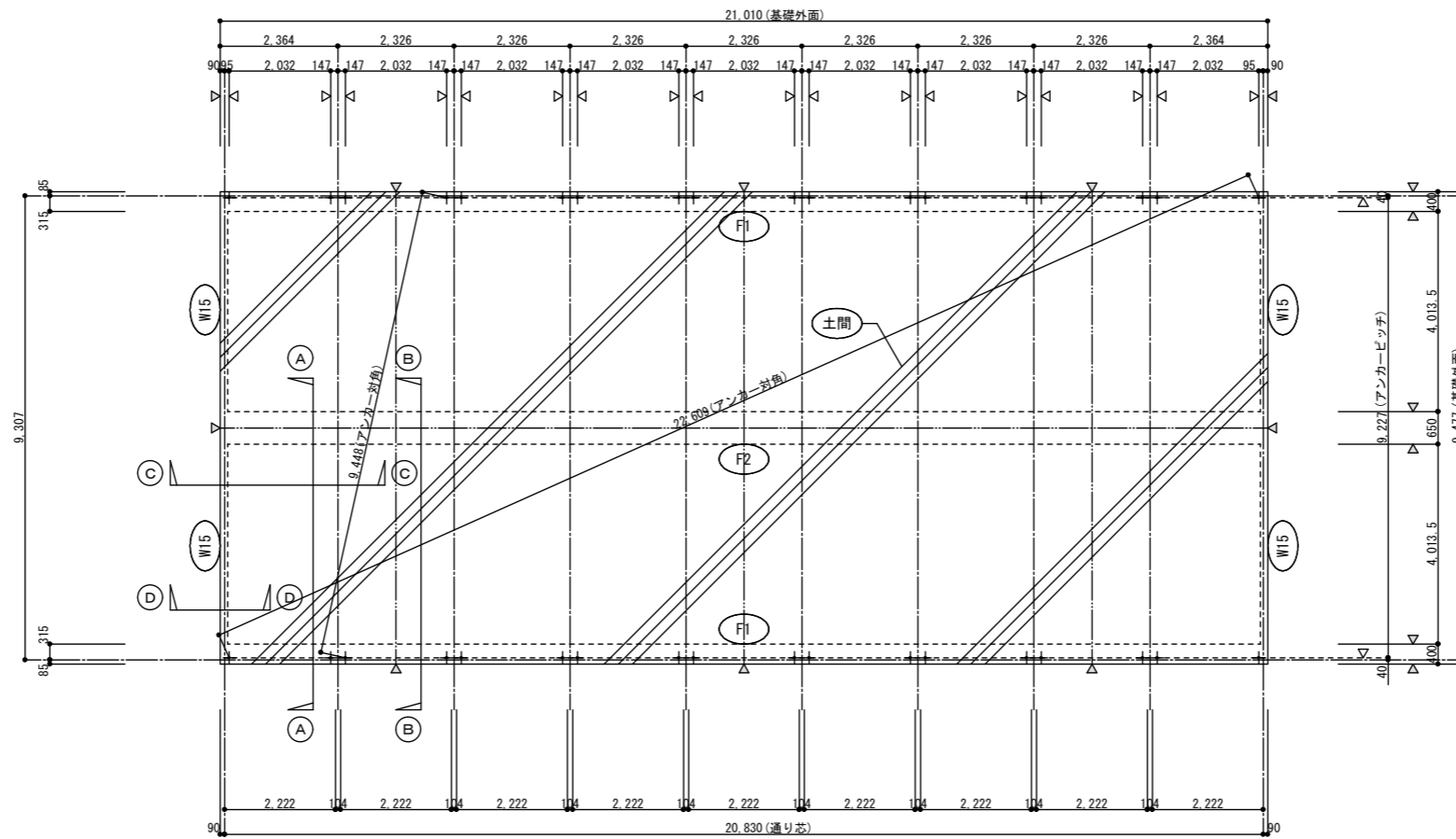


<p>① 適用範囲、重ね継手長さ、定着長さ</p> <p>[適用範囲] ● コンクリート ・設計基準強度 18N/mm² ~ 36N/mm² の普通コンクリート ● 鉄筋 ・SD295A, SD345</p> <p>[鉄筋の重ね継手長さ、定着長さ]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>鉄筋の種類</th> <th>コンクリートの設計基準強度 (N/mm²)</th> <th>重ね継手長さ: L1</th> <th>定着長さ (一般部): L2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">SD295A (SD345)</td> <td>18</td> <td>45dまたは35dフック付き (50dまたは35dフック付き)</td> <td>40dまたは30dフック付き</td> </tr> <tr> <td>21</td> <td>40dまたは30dフック付き (45dまたは30dフック付き)</td> <td>35dまたは25dフック付き</td> </tr> <tr> <td>24~27</td> <td>35dまたは25dフック付き (40dまたは30dフック付き)</td> <td>30dまたは20dフック付き (35dまたは25dフック付き)</td> </tr> <tr> <td>30~36</td> <td>35dまたは25dフック付き</td> <td>30dまたは20dフック付き</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ () 内はSD345の数値を示す。</p>	鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 (N/mm ²)	重ね継手長さ: L1	定着長さ (一般部): L2	SD295A (SD345)	18	45dまたは35dフック付き (50dまたは35dフック付き)	40dまたは30dフック付き	21	40dまたは30dフック付き (45dまたは30dフック付き)	35dまたは25dフック付き	24~27	35dまたは25dフック付き (40dまたは30dフック付き)	30dまたは20dフック付き (35dまたは25dフック付き)	30~36	35dまたは25dフック付き	30dまたは20dフック付き	<p>② 鉄筋のかぶり厚さ、鉄筋相互のあき</p> <p>[鉄筋のかぶり厚さの標準値 (mm)] (かぶり厚さ---コンクリート面より最も外側に位置する鉄筋の面までの距離)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">部 位</th> <th>設計かぶり厚さ</th> <th>最小かぶり厚さ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">土に接しない部分</td> <td>屋根スラブ</td> <td>屋 内</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>床スラブ</td> <td>屋 外</td> <td>40</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">柱・梁</td> <td>屋 内</td> <td>40</td> </tr> <tr> <td>屋 外</td> <td>50</td> </tr> <tr> <td>擁壁</td> <td></td> <td>50</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">土に接する部分</td> <td>柱・梁・床スラブ・壁・布基礎立上り</td> <td></td> <td>50</td> </tr> <tr> <td>基礎・擁壁・耐圧スラブ</td> <td></td> <td>70</td> </tr> </tbody> </table> <p>[鉄筋相互のあき (下記の値の最大のもの)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 25mm 異形鉄筋径 (呼び名) の 1.5倍 粗骨材の最大寸法の 1.25倍 	部 位		設計かぶり厚さ	最小かぶり厚さ	土に接しない部分	屋根スラブ	屋 内	30	床スラブ	屋 外	40	柱・梁	屋 内	40	屋 外	50	擁壁		50	土に接する部分	柱・梁・床スラブ・壁・布基礎立上り		50	基礎・擁壁・耐圧スラブ		70	<p>③ 鉄筋折曲げ形状・寸法</p> <p>d: 呼び名の数値</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">適用区分</th> <th>D16以下</th> <th>D19~D25</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">末端部</td> <td>曲げ角 180° 余長 4d以上</td> <td rowspan="4">D ≥ 3d</td> <td rowspan="4">D ≥ 4d</td> </tr> <tr> <td>135° 余長 6d以上</td> </tr> <tr> <td>90° 余長 8d以上</td> </tr> <tr> <td>90° 余長 12d以上</td> </tr> <tr> <td>中間部</td> <td>曲げ角 90°以下</td> <td>D ≥ 3d</td> <td>D ≥ 4d</td> </tr> </tbody> </table> <p>下記 1) ~ 3) に示す鉄筋の末端部には、フックを付ける。</p> <ol style="list-style-type: none"> 丸鋼 あばら筋および帯筋 最上階の柱頭四隅主筋 柱および梁 (基礎梁を除く) の出隅部の主筋 	適用区分		D16以下	D19~D25	末端部	曲げ角 180° 余長 4d以上	D ≥ 3d	D ≥ 4d	135° 余長 6d以上	90° 余長 8d以上	90° 余長 12d以上	中間部	曲げ角 90°以下	D ≥ 3d	D ≥ 4d
鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 (N/mm ²)	重ね継手長さ: L1	定着長さ (一般部): L2																																																									
SD295A (SD345)	18	45dまたは35dフック付き (50dまたは35dフック付き)	40dまたは30dフック付き																																																									
	21	40dまたは30dフック付き (45dまたは30dフック付き)	35dまたは25dフック付き																																																									
	24~27	35dまたは25dフック付き (40dまたは30dフック付き)	30dまたは20dフック付き (35dまたは25dフック付き)																																																									
	30~36	35dまたは25dフック付き	30dまたは20dフック付き																																																									
部 位		設計かぶり厚さ	最小かぶり厚さ																																																									
土に接しない部分	屋根スラブ	屋 内	30																																																									
	床スラブ	屋 外	40																																																									
	柱・梁	屋 内	40																																																									
		屋 外	50																																																									
	擁壁		50																																																									
土に接する部分	柱・梁・床スラブ・壁・布基礎立上り		50																																																									
	基礎・擁壁・耐圧スラブ		70																																																									
適用区分		D16以下	D19~D25																																																									
末端部	曲げ角 180° 余長 4d以上	D ≥ 3d	D ≥ 4d																																																									
	135° 余長 6d以上																																																											
	90° 余長 8d以上																																																											
	90° 余長 12d以上																																																											
中間部	曲げ角 90°以下	D ≥ 3d	D ≥ 4d																																																									
<p>④ 鉄筋の継手</p> <p>重ね継手 ● 径の異なる鉄筋の継手長さは細い方の鉄筋径による。 ● D29以上の鉄筋には重ね継手を用いない。 ● 隣り合う鉄筋の重ね継手は①または②を標準とする。</p> <p>① 継手位置をずらす場合 </p> <p>② 継手位置を重ねる場合 </p> <p>L1: 重ね継手長さ</p>	<p>⑦ フーチング配筋</p>	<p>⑧ 主筋端部の形状</p> <p>主筋端部 ● 基礎の主筋端部は90° 曲げとし、余長8d以上を確保する。</p>																																																										
<p>⑤ 基礎あばら筋</p> <p>「鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説2003年版」 (日本建築学会) のスラブなしあばら筋と同形状とする。</p>	<p>⑥ 二段筋の位置</p>																																																											



基礎伏図

特記なき限り下記による。

1. 基礎天端は設計GL+100とする。
2. 基礎下端は設計GL-170とする。
3. 中はアンカーボルトを示す。
4. 特記なき ∇ はアンカーボルト芯を示す。
5. 特記なき ∇ は基礎面を示す。
6. 図中の斜線部は土間コン範囲を示す。
7. 図中の \triangleright \triangleleft は目地位置を示す。

レベル精度	2mm以内
アンカーピッチ精度	±2mm
対角精度	±3mm

* 地盤に高低差がある場合現場監督者に確認のこと。

長期許容支持力 $q_a = 30 \text{ kN/m}^2$

使用材料

1) コンクリート

設計基準強度 $F_c = 18 \text{ (N/mm}^2\text{)}$

品質基準強度 $F_q = 18 \text{ (N/mm}^2\text{)}$

調合管理強度 $F_m = 18 + mSn \text{ (N/mm}^2\text{)}$

※調合管理強度は品質基準強度に構造体強度補正値(mSn)を加えた値とする。

・普通セメントの構造体強度補正値 (mSn)

平均気温	$8 \leq \theta$	$0 \leq \theta < 8$
mSn	+3	+6

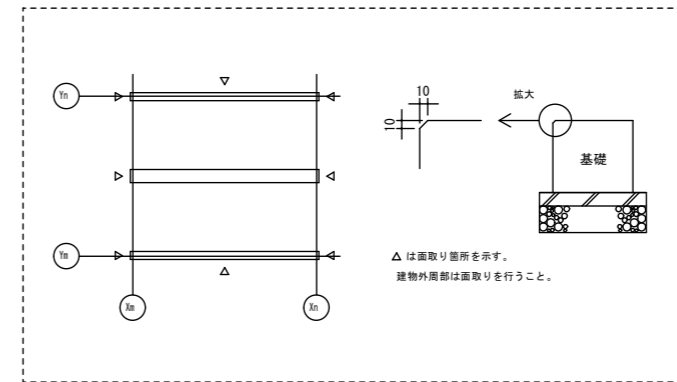
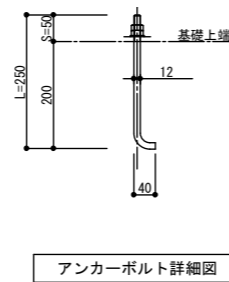
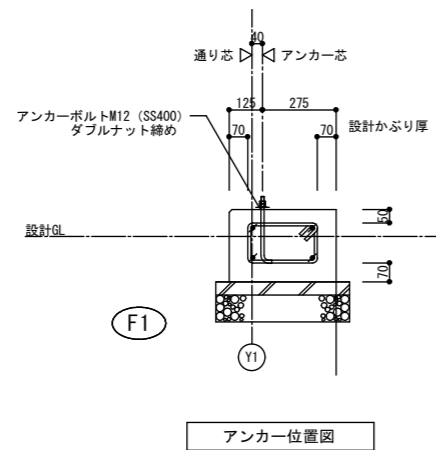
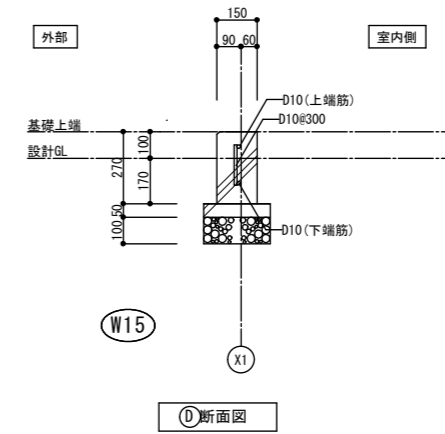
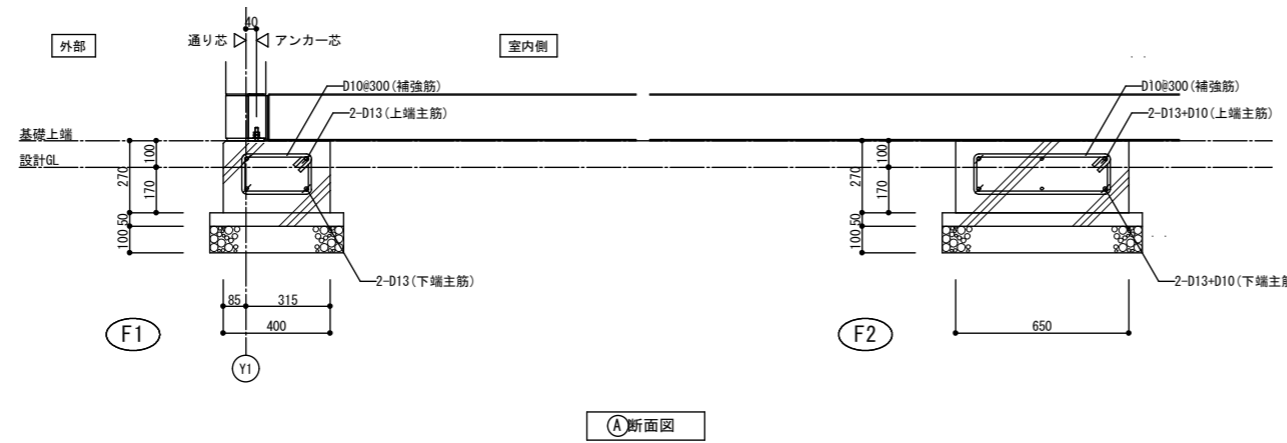
※暑期中間におけるmSnは+6とする。

2) 鉄筋 SD295A

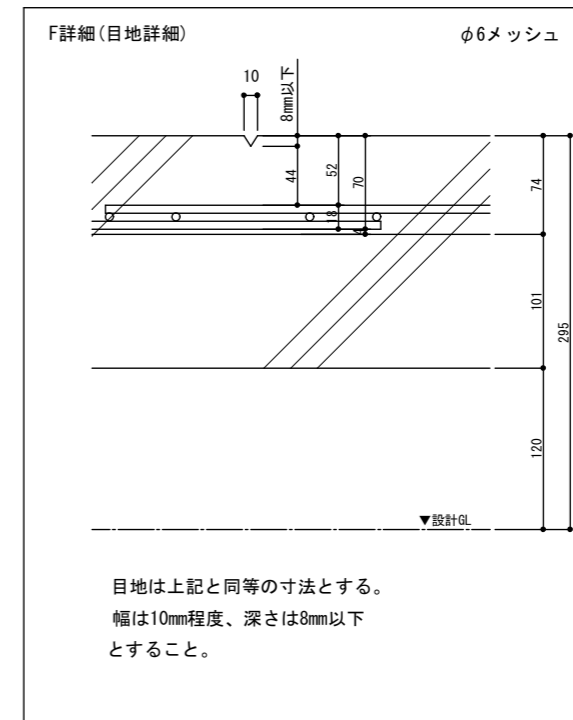
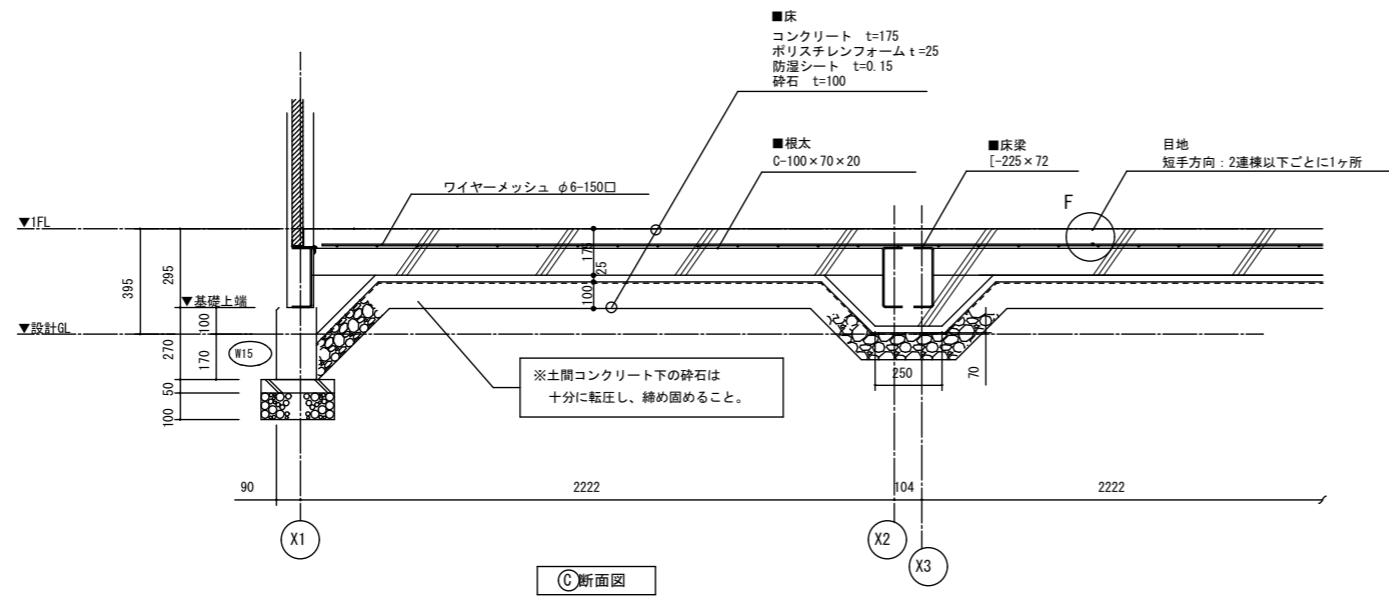
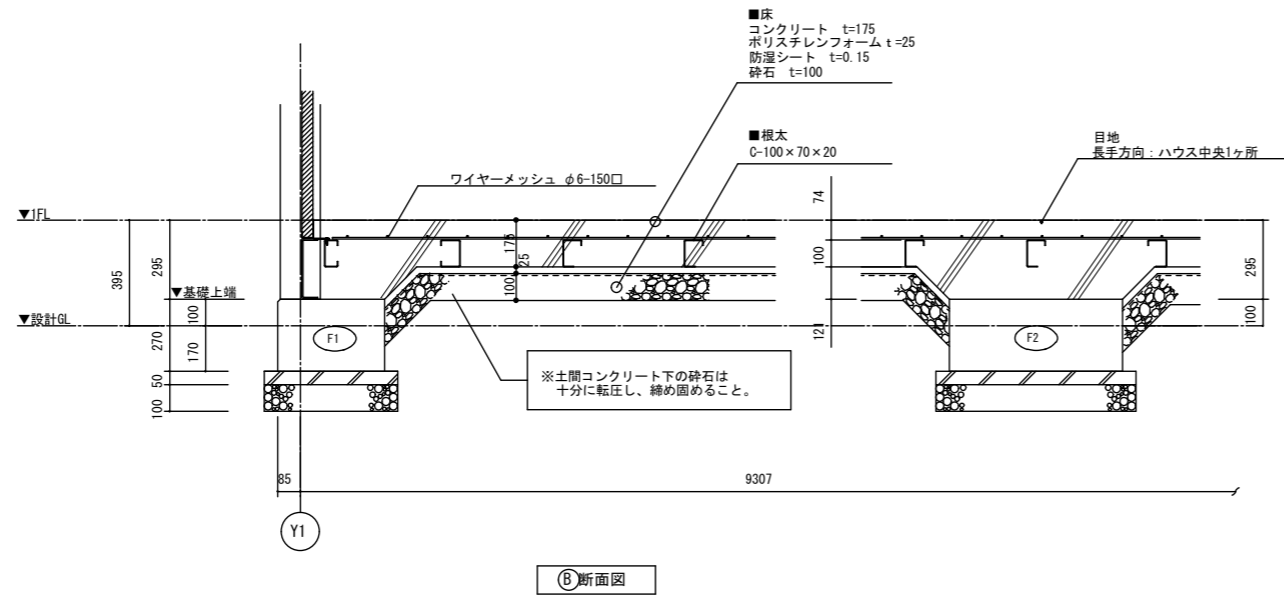
工事名称		能津地区集落活動センター整備事業		日付	
構造図	基礎伏図	縮尺	1/100	図面番号	B-02
				担当	

特記なき限り下記による。

- 1. ◦ は、鉄筋 D10 を示す。
- 2. ∅ は、鉄筋 D13 を示す。
- 3. ✕ は、鉄筋 D16 を示す。



工事名称 能津地区集落活動センター整備事業				日付
構造図	基礎詳細図	縮尺 1/20	図面番号 B-03	担当



工事名称		能津地区集落活動センター整備事業		日付	
構造図	土間詳細図	縮尺	1/20	図面番号	B-04
				担当	